

には、リンクがあります。は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

事業所名	グループホーム 向日葵
日付	平成17年3月7日
評価機関名	有限会社 アウルメディカルサービス
評価調査員	薬剤師・介護支援専門員 痴呆介護経験8年、障害者、老人介護支援
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

講評 全体を通して(特に良いと思われる点など)
 医療法人を母体としたグループホームである。1階、2階の2ユニットで、1階にはデイサービスセンターも設けられている。
 車椅子専用のトイレやストレッチャーが入るエレベーターを設置するなど、ホームには病院のノウハウも生かされている。

医療面でのバックアップ体制はしっかりしており、医師が必要と認めた入居者は、病院でのリハビリも受けられる。夜間対応も問題ない。終末期の対応については、家庭としてのグループホームだけでなく、医療と福祉の総合的な面から対応を考えておられる。

職員は、声かけを重視し入居者に笑顔で接している。特に決められた日程を用意せず、入居者のやりたい事を、無理強いせず支援していている。
 部屋の掃除、洗濯物の片付け、食事の片付けなどを入居者と一緒に行い、手伝ってもらっている。
 本人の性格、排泄パターンなどに配慮し、見守りもよく行われている。

改善の余地があると思われる点
 台所、居間、居室の配置により死角があります。見守りする上で、職員の位置関係に注意して下さい。ユニットごとの入り口は安全のため施錠されていますが、ホーム内に植栽、プランタンなど少ないようです。一寸した外出や気晴らしの出来る環境を工夫してみてください。
 オープンして8ヶ月。理念の実現に向けて、事業者、職員でしっかり意思の疎通を図ってほしいと思います。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 「体にゆとりを、心に安らぎを、ぬくもりのある時間を、あなたと共に…」をモットーに、ゆとりのある自由な暮らし、安らぎと自信にあふれた暮らし、自分でできる喜びと達成感のある暮らし、豊かな人間関係を保ち、支えあう暮らし、生きがいを持った充実感のある暮らし、居心地のよい安らぎのある暮らしを目指している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か デイサービスのよう飾り付けはなく、ホーム内は、落ち着いた雰囲気ですべて統一されている。 入居者への声かけを重視している。帰宅願望が強ければ、家族と協力して、外泊、外出や面会に来てもらったりして対応している。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 排泄時のパターンを把握し、きめ細かに声かけをする。小声で話しかけ、他の入居者に分からないように配慮している。 また、入居者の昔の話もよく聞く。元先生など、同じ話でも気分よくみんなの前で話が出来るように接している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か、 母体が病院である事をメリットにして、特に医療面でのバックアップを充実させている。病院での診察時には医師が直接入居者の気持ちを聞くなど、職員が出来ない事を行っている。 ユニットごとに介護のやり方を任せ、どの方法が良いかを検証しより良いグループホームの実現に取組んでいる。		